

平成24年度宇治市小中一貫教育推進協議会会議録

会議名	平成24年度第1回宇治市小中一貫教育推進協議会
日時	平成24年7月12日(木) 17時30分～19時30分
場所	宇治市役所 6階 602会議室
出席者	(委員) 榊原会長 宮脇副会長 佐名田委員 能勢委員 部委員 吉田委員 田邊委員 伊家委員 坂井委員 荻野委員 小谷委員 鶴飼委員 大槻委員 村上委員 (事務局) 石田教育長 中谷部長 藤原教育部次長 山下教育改革推進室長 上道学校教育課長 富治林小中一貫教育課長 市橋教育指導課総括指導主事 瀬野小中一貫教育課総括指導主事 吉田小中一貫教育課計画推進係長 米田学校教育指導主事 妹尾小中一貫教育課主任
欠席委員	なし
配布資料	資料 平成24年度第1回宇治市小中一貫教育推進協議会資料
1 開会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石田教育長 開会挨拶</li> <li>・各委員自己紹介</li> <li>・事務局紹介</li> <li>・設置要項に基づき副会長に宮脇委員を選出 宮脇副会長挨拶</li> </ul>
2 報告及び協議事項	<p>(1) 報告1 平成23年度本会の活動概要報告 資料(6頁)に沿って事務局より説明。 質疑応答等 特になし。</p> <p>(2) 報告2 全面施行の到達状況 資料(7頁～)に沿って事務局より説明。 (委員) 昨年度は積極的に小中一貫教育に取り組めたと思う。息の長い地に足のついた取組 が大切である。 (委員) 小中一貫教育には期待しているので継続しての取組をお願いしたい。</p> <p>(3) 報告3 小中一貫教育に係る意識調査について 資料(15頁～)に沿って事務局より説明 (事務局)</p>

4月より全面実施となった小中一貫教育に係る児童生徒及び保護者の意識、または学校の状況を把握するためアンケートを実施した。現在回収中で、集計作業の後、本会等にて報告する。今後も継続してアンケートを実施して経年比較していく予定である。

(会長)

おおよそでいいので対象人数を教えてください。

(事務局)

児童生徒およそ2500人、保護者およそ2500人である。

(委員)

教職員向けアンケートは学校単位での回答となっているが、学校単位では個々の教員の意見が反映されないのではないかと？

(事務局)

学校単位の回答とは、学校長が回答することを想定している。全面実施の開始にあたり、まずは学校全体でみた場合の課題点等の洗い出しが重要と考え、学校長の視点からのアンケートをお願いした。今後、推進協議会からの意見を踏まえた上で、教職員を対象としたアンケートも検討できるかと思う。

(委員)

このアンケートの項目はどのように決めたのか？

(事務局)

NEXUS プランで記載している小中一貫教育のねらい7項目を中心に、教育の重点や小中一貫教育の今年度の到達目標を勘案して作成した。

#### (4) 報告4 今年度本会の活動について(案)

資料(8頁~)に沿って事務局より説明

(委員)

小学校教員が中学校で行なう授業、また中学校教員が小学校で行なう授業を視察したいが可能か？

(事務局)

視察対象の授業等は複数回予定している。内容については事前に情報提供するが、現時点でそのような授業があるかは断言できない。

(会長)

視察を受け入れる側としての意見を伺いたい。

(委員)

それぞれの学校で子どもの様子も違う。それぞれの学校の特長がでていているところを見てもらいたい。

(委員)

東宇治中ブロックであるが、小中連携教員の授業を見てもらうのが分かり易いと思う。

(会長)

各委員には事務局からの情報提供を元に視察先を検討してほしい。また、各学校にはご苦勞をおかけすることになるがよろしくお願ひしたい。

(5) 報告5 中学校ブロックを単位とした取組について

資料(9頁~)に沿って事務局より説明

質疑応答等

特になし。

引き続き、伊家委員より今年度4月に開校した宇治黄檗学園の現状報告

開校から3ヶ月がたったが、これまで順調に進んでいると思う。新しい施設で学ぶことで、子どもたちの物事に意欲的に取り組む様子が見受けられる。これは特に5~7年生で顕著である。子どもたちは落ちついて学校生活を送っており、今のところ中1ギャップなどの問題は見受けられない。中学生が担任に「中学生になった気がしない」と言っていた。これはいいことだと思っている。いつの間にか中学生になっていたというのが理想である。

(委員)

在住校区の中学校は耐震工事も終わっていないし、空調も整備されていないのに、宇治黄檗学園の様な立派な施設があるのは不公平だと思う。同じ税金を払っているのだから平等に施設整備を進めてほしい。

(事務局)

施設整備は順次計画的に進めている。また、その時々々の教育志向に応じた施設整備を行なっているのでご理解願ひたい。

(会長)

続いて、他の各中学校ブロックについても報告をお願いする。

(委員)

槇島中ブロックでは、地域との連携のなかで子どもを育てることを重視している。地域にしっかりと情報発信していきたい。今年度はこれまでの取組を改善しながら進めていく。

(委員)

北宇治中ブロックでは、合同授業研究のようにそれぞれの学校が豊かになるよう取り組んできた。地域との連携のなかで子どもを育てることを重視している。今年度は中学校の厳しい生徒指導の状況を小学校教員と共有しながら、小学校での指導のあり方を共に研究していきたい。

(委員)

宇治中ブロックは推進協議会のなかに全ての小中学校の教員が関わって取り組んできた。今年は児童が中学校の部活体験の実施を検討している。

(会長)

最後に各委員から一言ずつお願ひしたい。

(委員)

各ブロックの取組について、その課程と結果の情報発信をしてほしい。

(委員)

みんなが取り組めるようにバランスよく取組を進めてほしい。

(委員)

宇治黄檗学園の保護者であるが、いい雰囲気スタートしたように思う。小中一貫教育の推進について何か指標があると進行管理がし易いと思う。

(会長)

小中一貫教育推進に係る指標については今後の検討課題としたい。

(委員)

宇治黄檗学園での報告にあったように、滑らかに中学生になっているのはよいと思う。先の意見と同じだが、小中一貫教育を推進するには、何か基準となる指標があるとよいと思う。

(委員)

地域で行なっている夏まつりでは、小中学生が一緒になって取り組んでいる。このような地域行事が小中一貫教育につながっていくと思うと今後がんばって取り組んでいきたい。小中一貫教育を知らない人もいるので広報は続けてほしい。

(委員)

チーフコーディネーターの役割が非常に大切だと思う。

(委員)

小学校、中学校では文化の違いがある。お互いに話し合うことで近づいていかなければならないと思った。

(会長)

宇治黄檗学園といった小中一貫校ができたのはうれしい。分散進学解消には小中一貫校の建設は必要と考えている。また、宇治黄檗学園には小中一貫教育の中心的な役割を担うことを期待している。

宇治黄檗学園の中学校は1年生(7年生)のみ。部活動の大会などでは力不足の面も否めず、中学校2、3年生(8,9年生)がいないためと思っていたが、中学校1年生の自分たちが中心にならなければならないとの高い意識をもって部活動に取り組んでいるのを見て、長い目で見ると大きな力になると思った。

(委員)

小学校同士でも考え方が違ったりする。十分に話し合いをすることが大切。

(委員)

やはり小中一貫教育非常勤講師の力が大きい。このおかげでチーフコーディネーターが動き易くなっている。

(委員)

宇治黄檗学園は全市的な注目を集めており、たいへんなプレッシャーだろうと思う。東宇治中ブロックでは宇治黄檗学園と隣接しているため、保護者から比較され易くプ

レッシャーを感じている。お互いに切磋しながらよりよい小中一貫教育を推進できればと思う。

(委員)

他市町村からの視察が多い。その際、宇治市では全ての小中学校で小中一貫教育に取り組んでいることを説明している。全市的に小中一貫教育に取り組めていることは誇りに思いたい。

(委員)

施設の差はあったとしても教育内容には差がない様、小中一貫教育の推進に努めていきたい。小学校からの中学校への滑らかな接続が大切である。今回のアンケートで子ども、保護者がどう思っているのか分かるので、この結果を大切にして今後の活動に活かしたい。また、就学前教育も重要であり、幼小連携を実施しているので注目してほしい。

(会長)

今回の会議では各委員からたいへん貴重な意見をいただいた。次は視察になると思うがよろしく願いたい。

### 3 閉会

・中谷教育部長より閉会の挨拶